

は し が き

言語センター長 尾形弘人

『言語センター広報』第24号をお届けいたします。大学を取り巻く状況は、特に人文・社会科学系にとっては極めて厳しいもので、各大学は自らの強みを最大限に活かし、他に比して際立った独自性を示すよう求められています。「実学、語学、品格」を伝統とする本学は、地域に深く根差しつつ、広く世界にも目を向けた「グローバル人材」を育成すべく、平成27年4月、グローバル戦略推進センターを新たに設置しました。そういった戦略の下、言語センターも、より総合的で実践的な外国語教育を目指す所存です。

さて、平成27年度ですが、人事関連では4月1日付で、英語系准教授に佐々木香織先生が着任いたしました。また、同日、大島稔教授(英語)、斐嶺教授(中国語)が特任教授に就任しました。他方、誠に残念なことに、スペイン語系の田林洋一准教授が、本年度末をもって、東北大学高度教養教育学生支援機構に転出いたします。また、10月には、ダニエラ・カルヤヌ教授(英語)がルーマニアでの研修を終え、代わってショーン・クランキー教授(英語)が1年間のサバティカルに入りました。研修地はミシガン大学等で、研究テーマは「Language Assessment and Materials Development」です。他の海外出張・研修については、末尾一覧のとおりです。

次にBL(Blended learning)プロジェクトですが、これはonline学習と対面授業をブレンドする新しい試みで、平成26年度の多目的教室の整備に続き、同年度末の3月には、リーダーのジョン・サーマン教授(英語)が、お披露目の模擬授業を行いました。これを皮切りに、サーマン教授は、BL授業と通常授業との対照比較、学生による小樽水族館の英語ガイドの作成指導、また、TBLT(Task-Based Language Teaching)学会での発表等、精力的にプロジェクトを先導しました。また、6月にはハワイ大学のマルタ・ゴンザレス准教授に講演いただき、そのハワイ大学をはじめ、トランシルヴァニア大学、ジョージア大学と、双方向通信授業を試行しました。教材開発を担うデジタルタスク室は、年内にはコンテンツ制作数70以上をクリアし、そのいくつかはBLのホームページよりご覧いただけます(本学HPの「Active learning」よりお入りください)。

他方、BLの前身となるEL(e-learning)は、現在はTOEIC対策授業で継続展開されています。TOEIC IPテストのこれまでの平均を見ると、1年生は526点(2012)、536点(2013)、528点(2014)で、2年生は544点(2013)、531点(2014)でした。総括するにはデータ不足ですが、概して、(1)2年次に期待された成績の伸びが見られない、(2)その結果、2年次の再履修者数が想定以上となっている、と言えます。今後の課題としては、オリジナル問題の見直し、特に低得点者に対するフォロー、逆に高得点者に対する発展的授業などが挙げられます。

次に高大連携では、10月と12月に、旭川南高校の1年生40名、岩内高校の1、2年生30名を本学に迎え、それぞれジョン・サーマン教授、中津川雅宜学術研究員(国際交流センター)が英語の授業紹介を行いました。また8月のオープンキャンパスでは、模擬講義として、ジョン・サーマン教授が「Having Fun with English Learning」を、ショーン・クランキー教授が「From Passive to Active: Becoming a Better User of English」を行いました。

一般市民向けには、本年度も「外国人による集中外国語講座」を開講し、ジェイミー・ケンプ講師（英会話）、李鉄君講師（中国語）、A.B.スペヴァコフスキー講師（ロシア語）、岩澤マリア講師（スペイン語）、李賢峻准教授（朝鮮語）が、それぞれ計10回の講義を行いました。また、ケンプ講師には、小樽協会病院の職員を対象とする特別英会話講座もご担当いただきました。さらに、生涯教育に役立てていただくため、夜間主コースのドイツ語、フランス語、中国語、言語学、言語文化論を、通常授業公開講座としました。

中・高の学校教育については、本学出身の教員による第28回「教職研究会」を、大島稔会長の下、12月12日、言語センターを会場に開催しました。本学からは中津川雅宜学術研究員が「英語科におけるアクティブ・ラーニングの現状と将来」を発表し、ジョン・サーマン教授がBLプロジェクトについて報告しました。また、7月の教員免許状更新講習では、英語系教員5名が、「英語による教授法（TETE）ー コミュニカティブな授業のための教材作成とヒント」をテーマに講習指導しました。

その他、2010年から続くショーン・克蘭キー教授の「English Lecture Series」が、本年度も11名のゲストスピーカーを迎え、計86回を数えるに至りました。また、例年の「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」（第65回大会、8月、山形大学）には、言語センターからは李賢峻准教授が出席しました。

最後に、本学特任教授の江口修先生が、平成28年3月末をもってご退任なされます。江口先生には昭和53年の本学赴任以来、フランス語関連科目のご担当はもとより、第2代言語センター長として、実に4期8年（H5.10.1.~H13.9.30）の長きにわたり、本センターの基盤固めから今に至る言語教育の道筋を示していただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

平成27年度海外出張・研修一覧（平成27年3月～平成27年12月末、渡航順）

- マーク・ホルスト教授「英語教育に関する資料収集」（ラオス国立大学、H27.3.1.~3.16.） ●イブラヒム・ファロウク准教授「CLASS 35th Annual Research Conference 2015」（グアム大学、H27.3.9.~3.13.） ●裴崢教授「外国語教授法等に関する調査、資料収集」（華東師範大学他、H27.3.14.~4.1.）
- ショーン・克蘭キー教授「13th Conference on British and American studies参加」（トランシルヴァニア大学、H27.5.7.~5.13.） ●高野寿子教授「27th European Summer School in Logic, Language and Information 参加」（ボンベイ・ファブラ大学、H.27.8.2.~8.17.） ●マーク・ホルスト教授「グローバル人材育成プログラム・国際交流に関する打ち合わせ」（マラヤ大学、H27.8.8.~8.14.）
- 山田久就教授「アパール語、ロシア語、他の諸言語に関する資料収集」（ロシア連邦国立図書館他、H27.8.22.~9.12.） ●裴崢教授「外国語教授法等に関する調査、資料収集」（北京語言大学他、H27.8.25.~9.16.） ●ショーン・克蘭キー教授「グローバル人材育成プログラム構築に関する打ち合わせおよび国際学術交流」（オタゴ大学、H27.9.5.~9.13.） ●副島美由紀教授「ベルリン国際文化祭参加、文献収集」（ベルリン祝祭劇場、ベルリン国立図書館、H27.9.6.~9.26.） ●李賢峻准教授「韓国日語日文学会参加」（ソウル女子大学、H27.9.11.~9.20.） ●ジョン・サーマン教授「the 6th Biennial International Conference of Task-Based Language Teaching, TBLT 2015参加」（ルーヴェン・カトリック大学、H27.9.14.~9.19.） ●裴崢教授「中国語教科書出版に関する調査、資料収集」（揚州大学、H27.10.10.~10.16.） ●李賢峻准教授「≪戦後70周年記念≫崔承喜国際学術セミナー参加」（淑明女子大学、H27.10.28.~11.1.） ●ダニエラ・カルヤヌ教授「打合せ、資料収集」（ブカレスト大学、H27.10.30.~11.7.）